

「守りたい3つ 自然、エネルギー、そして命」 ～ロケットストーブからはじまる新たなコラボ～

○エントリー団体

夏油古民家カフェ kobiru

○コラボメンバー(役割分担)

北上消防署:防災・減災にむけた場の提供

岩手県緑化推進委員会北上支部:森林保全に向けた場の提供

クイック株式会社:薪割体験後の燃料供給

岩手県防災士会:炊き出しへの活用に向けた場の提供



○事業への思い・解決したい課題

木質燃料は、エネルギーの多くを輸入に頼る日本にとって、世界情勢が変化する中でも安定的に確保ができる数少ない資源の一つです。さらに森林環境保全という観点でも、間伐材はもとより、林地残材を有効に活用することは大切です。そして、北国の充実した空間創出という点でも木質燃料のあたたかさは魅力のひとつになります。

このプロジェクトでは、簡易ロケットストーブを通して、木質燃料の使い方や新しい活用の仕方を知っていることで、自然災害や国際情勢等、さまざまな危機を乗り越えられる意識を、今から高めておきたいと考えます。

○コラボの経緯

元々自営で展開している喫茶店において研究を重ねてきた薪ストーブ(ロケットストーブ)は、本来屋外で活用するものであるルーツから生まれたものを屋内で活用しています。このロケットストーブのメカニズムは、様々な分野でシナジーが見込めるものであると考えていました。これをさまざまな事業につなげるべく、「薪ストーブ新常識ラボ G-rock 寺子屋」を通して、関連する機関や団体、企業といった組織との連携を図っています。

○具体的な取り組み内容

●薪ストーブ新常識ラボ G-rock 寺子屋の開催

防災・減災への備えをメインテーマに、有事の際に重宝する簡易ロケットストーブをワークショップ型として自ら製作することで構造を理解し、同時に環境問題、エネルギー実状の学びを絡めた寺子屋を実施し、のべ120名の方にご参加いただきました。

●北上消防署 庁舎開放デー

防災への意識、減災への取り組みとして、夏油ロケットストーブの実演展示を行いました。有事の際に重宝するストーブ機能を備えた焔炉でパエリアを調理するなどした機能説明を行い、防災・減災への備えを説明しました。

●鬼柳地区防災訓練

防災士会が中心となり、参加型、体験型として行う防災訓練で、日本赤十字社の提供する非常用炊き米であるハイゼックスを、薪燃料のみで炊き上げる訓練を担当しました。

●緑化まつりへの参加

薪割体験との連動性として、割った薪がどのような流れで活用されるかを、主に子ども達への学びの場として、薪割ブースと隣接しストーブの実演展示を行いました。

○コラボの効果

・消防署との取り組みでは、ファミリーでの来場者が多数を占め、防災・減災への備え以外にも、家族で楽しめるアウトドアやキャンプ、バーベキューなどにも活用の幅があることも共有できました。

・防災訓練では、地域消防団員との協力があり、赤十字社と防災士会との連携が噛み合い、今後の防災先進事例となりえた有意義な時間となりました。

・緑化まつりでは、来場者・関係者の皆さんに、森林保全と熱エネルギーの関係を知ってもらえ、またロケットストーブの構造についての理解も共有できました。

○今後の展開

今年度も「薪ストーブ新常識ラボ G-rock 寺子屋」を10回開催し、「守りたい3つ ～自然 エネルギー そして命～」を学びます。この寺子屋で関連する機関や団体、企業といった組織とのさらなる連動が生まれれば、その組織やその関係する産業にも小規模な発展もさらに見えてくると思います。